

## 株式会社 オデッセイ コミュニケーションズ様

こんにちは。

フロリダ州のオーランドに近い Winter Park に留学中の阿部大亮です。

この手紙を書くにあたり、改めて自分自身のことを振り返ってみると、出発前の期待とアメリカの現実との違いを知りましたし、さまざまな発見や問題意識を持つようになるなど、日々成長している自分を感じています。それと、“留学期間があと半分しか残されていない”といった時間の経過の早さにも改めて驚いています。

私が住んでいる Winter Park はフロリダの中央部に位置します。付近には、ディズニーやユニバーサルの手がける娯楽施設がある一方で、たくさんの湖や豊かな自然にも恵まれていて、都会と自然のどちらをも満喫できる最高の場所だと言えるでしょう。また、フロリダ州は10月下旬頃まで日中は30度を超す日がほとんどで、青森出身の私にとって到着後しばらくの間は体が馴染めなくて大変でした。逆に、冬は気温がマイナスになったのは2日程度で、冬休みはホストファミリーと一緒にフロリダ最南端のキーウエストの別荘に泊り、海水浴やカヤック、釣りなどを楽しみました。冬にこのような過ごし方をしたのは人生で初めての経験です。

ホストファミリーは、両親と大学生の姉と私と同年の弟の4人家族です。大学生の姉はほかの州の大学に在学中なので、現在は私ともう一人ドイツ人の留学生を加えた5人で生活しています。私には男の兄弟がいないので、同じ年齢の男3人の生活は賑やかな日々です。同年代だからこそ悩みや感じ方などで共有できる部分も多く、国籍に関係なく“人間として同じなんだ”ということを実感しています。

学校は、全校生徒数が約3,000人を超える、フロリダ州でも大きな高校の一つで、学校にはホストブラザーと一緒に自転車で通っています。キャンパスもとても広く、授業と授業の間は5分しかないので、初めて学校に行った日は校内で迷ってしまうほどでした。授業は、最初の頃はシステムや言葉の違いに戸惑いでしたが、昼休みや放課後に先生の教室に何度も質問しに行くなどして徐々に慣れていきました。学校生活はとても順調で、夏は水泳部に所属し、秋はボランティアクラブに所属してボランティア活動に精を出しています。その他、私が意欲的に取り組んでいるプロジェクトとして『International Student Association』があります。これは、アメリカの生徒たちにも留学や海外の文化に興味を持ってもらうことを目的に、私が提案して設立した組織です。現在、私が通う高校には11人の留学生がいますが、派遣元の留学機関が違うと会う機会に限られるということに気づきました。そこで、限られた留學生活のなかで少しでも会う機会を増やし、皆で行動

を起こして経験を共有し合いながら、相互交流を深めていきたいと考え提案しました。プロジェクトはまだ初期段階ですが、先日、初のミーティングを開き、“残りの期間で何ができるか”などを話し合いました。ミーティングでは、とてもユニークなアイデアが多数出てきたので、これからの取り組みに力が入ります。

また、AFS フロリダ支部でも、オリエンテーションなどを通してほかの国の留学生と交流しています。フロリダ支部は全体の生徒数が17人とその他の州に比べて少ないのですが、その分、より深いディスカッションができ、お互いの国の違いやアメリカについて感じたことを議論しています。ときに、そのほかの留学生の悩み相談にのってあげるほど全員がとても仲の良いメンバーです。日本人は私だけですが、そうになると、他人から見られる“日本人”のイメージとしての責任が大きいため、良い意味での緊張感を保てていると思います。

留学当初の頃と比べると、言葉も上達しましたが、それ以上に「生きる大切さ」ということを感じるようになったと思います。異国の地に住み、友達もいないまったくゼロの状態からスタートして、いまの自分を形成できた点は我ながら頑張ったと思います。しかし、もっと強く感じているのが「自分は一人ではない」ということです。さまざまなボランティアのサポートに囲まれ、ホストファミリーからは無償の愛を分けてもらっています。このことを感じて以来、私は毎日小さなことにも感謝するようになり、これまで以上に努力して、将来は自分がしてもらったことを返してあげられるようになりたいと考えるようになりました。

これらの経験が、今後の自分の人生を変えていくと思うと、胸の高鳴りが止まりません。また、残り半分の留學生活は、現在取り組んでいるプロジェクトを成功できるよう頑張りたいと思います。改めてAFSとオデッセイコミュニケーションズ様に感謝します。

2010年2月

阿部大亮

(留学先のアメリカより)